

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

令和5年度定時会員総会が開催される

令和5年度定時会員総会が令和5年6月9日(金) RaiBoC Hall(市民会館おおみや)7F小ホールにて開催された。本総会の審議内容は令和4年度事業報告、収支決算報告、監査報告、第52回埼玉県医学検査学会会長選出および令和5・6年度監事の選任についてであった。総会は長澤英一郎事務局次長の進行で神山清志会長のあいさつで始まり、続いて原繁一氏、津田聡一郎氏の各名誉会員の紹介があった。総会に先立ち各賞表彰式が行われ、令和5年度埼臨技功労賞が第50回埼玉県医学検査学会学会長の神山清志氏に授与された。永年会員表彰は37名の会員が該当し、総会では3名が表彰された。



神山清志会長

総会は議案審議に先立って菊池裕子氏(一般社団法人上尾中央医科グループ協議会)が議長に選出され、菊池議長により総会役員が指名された。資格審査委員は佐瀬勝也理事(東松山医師会病院)、東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から神嶋敏子氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から伊藤隆史氏(医療法人明晴会西武入間病院)、北部地区から阿部健一郎氏(深谷赤十字病院)が任命され、資格審査委員長には委員の互選により佐瀬理事が選出された。また書記は織田喜子氏(越谷市立病院)と赤岩千優氏(さいたま市立病院)が、議事録署名人には久保居由紀子氏(JCHO埼玉メディカルセンター)と幸田早貴(埼玉県済生会川口総合病院)がそれぞれ任命された。その後、菊池議長は「18時30分現在の出席者数47名、委任状出席者数1,817名、議決権行使書数471名で、合計2,335名であり、本通常総会を構成する会員数は6月1日現在の会員数は3,573名で現在の出席数は総会審議のための必要出席者数である1/2を超えており、『定款』第18条の規定により本定時総会は成立している」と宣言された(最終の出席者数は70名、委任状出席者数は1,817名、議決権行使書数は471名、合計2,358名)。議事審議は、最初に佐瀬資格審査委員長より、議事日程が提案された。それに沿い菊池議長の進行により審議が始まり、第一号議案の令和4年度事業報告について神山会長から、第二号議案の収支決算について松岡優副会長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。質疑などはなく満場一致で可決された。第三号議案の第2回埼玉県医学検査学会学会長選出は、神山会長より木暮憲幸氏(株式会社TLC戸田中央臨



議長 菊池裕子氏

床検査研究所)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、木暮氏が挨拶を行った。続いて第四号議案の令和5・6年度監事の選任について神山会長より遠藤敏彦氏(株式会社ビー・エム・エル)、細谷博光氏(細谷会計事務所)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、すべての議案が可決された。

総会終了後、長澤次長の進行の下、第51回埼玉医学検査学会長矢作強志氏(川口市立医療センター)より学会からのお知らせがあり、全ての日程が終了となった。本総会が円滑に開催できたのは、菊池議長の円滑な進行と総会役員、出席者の協力及び多くの会員の皆様からの委任状協力によるものです。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

(文責:松尾千賀子)



埼臨技功労者表彰 神山清志氏(右)



永年勤続表彰



第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日: 令和5年12月3日(日)

会場: 大宮ソニックシティ

テーマ: Let's connect!

サブテーマ: 臨床検査技師になってよかった
～人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会
会計部長 小林 麻里子

第51回埼玉県医学検査学会の会計部長を務めさせていただきます、北埼玉医師会立メディカルセンターの小林と申します。学会企画では腸内フローラや科搜研のお仕事の話の他、研究班による症例検討や世代別に感じているそれぞれの本音を聞く機会を設けました。市民公開講演は2部構成となっており、塚原事務局長とつながりの深い渡辺俊介氏の講演や「Let's connect!」という学会テーマをもとに、山村国際高等学校ダンス部が魅力的なパフォーマンスを披露する予定です。

会計関係では、第50回学会に引き続き「Peatix」アプリを使用して学会参加登録や事前決済を行いますので、「Peatix」アカウントの削除・アプリのアンインストールは行わないようお願いいたします。そのほか、参加者の皆様にもストレスの少ない運営を目指して実行委員一同準備を進めています。ぜひ、ご参加をよろしく願いいたします。

第51回 埼玉県医学検査学会

運営部長 永井 謙一

第51回埼玉県医学検査学会の運営部長を務めさせていただきます、埼玉県済生会川口総合病院の永井謙一と申します。今学会では数年ぶりに、すべての発表にプロジェクターを用いた口演形式で行います。

運営部分の大きな改革としては、参加証の事前配布（ご自身での印刷）を検討し、当日の混雑緩和をめざします。

参加される皆様が快適に、運営側も無理することなく、過去の学会から未来の学会へ“connect”していける学会運営を行っていきます。

また、埼臨技HPの51回学会バナーよりアクセスしていただくと学会情報の閲覧、学会公式LINEの友達登録も可能となっておりますのでよろしくお願いいたします。



研究班研修会報告

テーマ 令和4年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告（血清） 免疫測定法のピットフォール

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年4月19日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：和4年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告

講師 1：岡倉 勇太（株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所）

講演 2：免疫測定法のピットフォール

講師 2：渡邊 剛（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員82名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 大坂圭司 森圭介 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回は、はじめに令和4年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告（血清）、次に免疫検査におけるピットフォールについて講演を行った。

精度管理事業報告では、項目ごとに測定法別、機器・試薬別の集計報告があった。梅毒脂質抗体では、メディエース試薬において3施設乖離している報告値があった。原因は5倍希釈を行ったためである。メーカーからは測定結果が4.0R.U.以上である場合、プロゾーン現象の可能性を考慮し希釈することが推奨されている。プロゾーン現象の確認は通常、2倍、4倍と倍々希釈を行い、測定値がフラットになることを確認する必要がある。今回の試料では1倍（原液）と2倍希釈の測定値が変わらないためプロゾーン現象が起きていないと考える。そのため、報告値は1倍または2倍希釈が正しい。全体的に良好な結果であったものの、機器や測定法の記入間違いや未記入、未回答を多数認めた。試料開封時の参加項目の確認、自施設の装置・試薬の理解、および入力後の確認を望むとの指摘があった。

免疫測定法のピットフォールでは、異常検査結果に遭遇した際の考え方から、各検査プロセ

スで考えられるピットフォールの要因と種類、対処方法まで幅広い講演内容であった。

ピットフォールとは翻訳すると「落とし穴」の意味であり、精度管理などが十分行われているにも関わらず前回値との著しい乖離、関連項目と挙動が合わない、臨床症状と合致しないなどの事例があり、それが本来求められる数値とは違うことを意味する。ピットフォールに気づかず結果報告をしてしまうと、測定結果の解釈や患者治療などに影響を及ぼす可能性があるため、ピットフォールを発見し分析することが重要である。

検査前プロセスで見られるピットフォールとして、マイクロフィブリン、溶血、異物混入を原因とするものがある。マイクロフィブリンは、採取管の転倒混和、再検査時の再遠心分離が有効である。溶血は採血手技や検体保存に注意し、溶血が強い際は再採血を検討する。異物混入で考えられるものは唾液、皮膚片があり、唾液は特にCEA、CA19-9、SCCの偽高値を起こすので手袋やマスクは確実に着用する。

検査中プロセスでは、プロゾーン現象や測定方法の違いなどが原因となる。プロゾーン現象とは、抗原抗体反応において抗原または抗体のどちらか一方が過剰であることが原因で反応が抑制される現象であり、検査結果の偽低値を引き起こす。測定機器のプロゾーンチェックで検出された検体などをマニュアル希釈することで検証する必要がある。また測定原理の違いによりCA19-9などの一部腫瘍マーカーは測定結果が乖離することがある。乖離の要因は多様であり、各測定法の特徴を理解することが重要である。

検体由来のものでは異好抗体やリウマトイド因子、M蛋白が要因となることもある。異好抗体が存在すると偽高値となるが、異好抗体と結合するIgGであるHAMAブロッカーの添加で要因を取り除くことができる。異常蛋白も偽高値を引き起こす可能性があるため、非特異反応の原因が異常蛋白と考えられた際は、PEG処理を行うことで除去することができる。

検査結果に違和感を持った際は、各プロセスを振り返り生理的変動・薬剤投与・検体の保存状態などに問題はないかを確認する。また、精度管理の異常や機器のエラーなども調査をする。それぞれに問題がない場合は非特異反応などを疑う。自施設でこのような対応が難しい場合は、メーカーや日本臨床化学会ピットフォール研究専門委員会への依頼も有用である。日常検査の中で、常に正しい検査結果を報告していくために、これらの知識を活用していきたい。

(文責：大坂圭司)

テーマ 炎症性疾患とバイオマーカー ～ 血清LRGの可能性 ～

主催 一般・臨床化学・血清検査研究班合同

実施日時：2023年4月25日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：福田 剛（積水化学株式会社）

参加人数：会員134名

出席した研究班班員

一般検査研究班：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹
小針奈穂美

臨床化学研究班：永井謙一 巖崎達也 松重萌衣

血清検査研究班：山本晃司 飯山恵 森圭介

研修内容の概要・感想など

今年度最初の一般検査研究班主催の研修会を臨床化学検査研究班と血清検査研究班の合同でWeb環境にて開催した。

新規炎症性バイオマーカーとして保険収載された血清LRG (Leucine rich alpha 2 glycoprotein) をテーマに福田氏より講演がなされた。

講演の冒頭にIBD (Inflammatory Bowel Disease) の疾患と治療の概要について説明がなされた。IBDとは腸に炎症をきたす疾患の総称である。細菌や薬剤など原因がはっきりした特異的炎症性腸疾患と原因不明の非特異的炎症性腸疾患に分けられる。この非特異的炎症性腸疾患にクローン病や潰瘍性大腸炎が含まれている。臨床現場では主にIBDとは、クローン病や潰瘍性大腸炎を指すことが多い。クローン病の患者数は集計開始の1976年は128人だったが年々増加傾向にあり、2013年には39,799人まで増加した。10代から20代の若者に好発し、男女比は2対1で男性に多い疾患である。潰瘍性大腸炎の患者数も年々増加傾向を示し2013年には166,060人であり、若年者から高齢者まで発症し性差は見られない疾患である。どちらも、今後益々増加が見込まれる疾患である。

また、IBDは再燃と寛解を繰り返す疾患である。現在では、大腸内視鏡検査によるフォローが一般的であるが、今後、血清で測定できるLRGが有用だと説明がなされた。LRGはロイシンリッチリピート (leucine-rich repeat) ドメインを8つ含む糖蛋白であり、潰瘍性大腸炎、クローン病の活動期の判定を補助するマーカーとして測定試薬が開発された。潰瘍性大腸炎において、臨床指標 (CAI ; Clinical Activity Index)、CRP及びLRGの組み合わせで、活動期の判定補助に有用であることが証明され、クローン病においては、臨床指標 (CAI ; Crohn's Disease Activity Index)、CRP及びLRGの組み合わせで、活動期の判定補助に有用である。

最後に、LRG測定試薬の性能評価に関して説明がなされた。試薬ブランク平均吸光度は10mAbs以下であり、感度に関して、標準抗原1の吸光度は、試薬ブランクの平均吸光度に標準偏差の2倍を加えた値より大きい。正確性は測定期待値の85~115%、同時再現性は変動係数10%以下であった。偽陰性の報告事例はないが、感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがあるので注意が必要であるとのことだった。

血清を使用し、各種汎用自動分析装置にて迅速にLRG測定が可能になったことにより、IBDの診療ガイドラインが今後変更になる可能性が伺われた。現在、LRGの測定を行っているのは埼玉県内では1施設のみである。今後の普及に期待したい。

(文責：藤村和夫)

テーマ **埼臨技 生理検査研究班 Webサーベイ2022報告会**

主催 生理検査研究班

実施日時：2023年4月30日 13時00分～16時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

報告 1：心電図

講師 1：工藤 淳子 (北里大学メディカルセンター)

講師 1：南雲 涼太 (埼玉県済生会川口総合病院)

報告 2：呼吸機能

講師 2：武藤 由里子 (医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院)

講師 2：家城 正和 (地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター)

報告 3：脳波

講師 3：福地 聡子 (医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター)

報告 4：心臓超音波

講師 4：相澤 梨恵 (獨協医科大学埼玉医療センター)

報告 5：腹部超音波

講師 5：小宮山 英幸（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

報告 6：泌尿器超音波

講師 6：石丸 直（埼玉医科大学病院）

報告 7：乳腺超音波

講師 7：横尾 愛（川口市立医療センター）

報告 8：血管超音波

講師 8：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員60名

出席した研究班班員：南雲涼太 家城正和 横尾愛 瀧沢義教 工藤淳子 武藤由里子

小宮山英幸 野村和弘

研修内容の概要・感想など

2022年12月に実施した「埼臨技 生理検査研究班 Webサーベイ2022」について、結果の報告と設問の解説をおこなった。サーベイ報告会は例年、現地開催としていたが、今年度初めてWeb環境下で開催した。サーベイ及び結果の公開をWebとし、CD-ROMの配布がなくなったことでWeb開催が可能となった。講師の人数が多かったが、共有の切り替え等、大きな問題なく進行できた。例年参加人数は30名程度であったが、開催形式のWeb化は参加人数増加に大きく寄与したと思われる。

Webサーベイの中で問1の心電図、問11の血液ガス、問15の心臓超音波の設問に関しては、正答率が低く「教育問題」とする旨、報告した。その他、正答率や正答、解説の内容は今後Web上にサーベイ解説ページを公開するとした。

生理検査研究班が実施する画像サーベイはISO15189をはじめとする各施設の精度管理業務に対して重要な役割を担っていると考える。現在、生理検査研究班Webサーベイとともに埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業についても実施方法を検討中である。詳細が決まり次第、追って報告するとした。サーベイ参加施設には改めて感謝を申し上げる。今後も会員により有益になるものにすべく改善を続けていきたい。

（文責：南雲涼太）

テーマ 新人および血液初心者必見!! 血液検査データの解説のコツ

主催 血液検査研究班

実施日時：2023年5月18日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：基本から再確認！血液分析装置からみる血液検査

講師 1：中山 智史（防衛医科大学校病院）

講演 2：貧血からみるデータの読み方

講師 2：網野 育雄（埼玉医科大学国際医療センター）

参加人数：会員217名

出席した研究班班員：中山智史 網野育雄 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 加藤鉄平

島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

講演1では、自動血球分析装置の測定原理および特性などの基本的な内容から、分析装置の

測定によって得られたデータの見方、考え方の話があった。検体を機械に乗せるだけで赤血球数などのCBCデータから白血球分画まで様々な項目を詳細に測定してくれる自動血球分析装置だが、得られたデータが患者の病態を反映している真値なのか、または採血手技や他の要因で間違った値が得られているのかは、装置の特性をしっかりと理解していないと判断ができない。しばしば採血手技によりフィブリンが析出している検体や採血管に含まれるEDTAにより血小板が低値を示す検体に出会うが、装置が出すフラグや流動分布図を見ることで報告前に一度立ち止まり確認することができる。普段ルーチン業務として装置を扱う方はもちろんのこと、夜勤のときのみ装置を扱う方も使用している装置の基本的な原理、特性は理解しておく必要がある。

講演2では、日常業務で一番出会う頻度の高い貧血のデータについての見方、考え方について講演があった。貧血は「赤血球の産生低下」「赤血球崩壊の亢進」「失血」により引き起こされるという話があったが、ただHbが低いから貧血という考えではなく、どういう貧血で何が原因で起きているのかを考えることでそのデータが正しいのかを見るだけでなく、次に行われる血液像目視の際にも特定の疾患を疑いながら検査をすることができ、より精度の高い検査結果を臨床に渡すことができると考えられる。分析装置に対する理解と疾患に対する知識を持って、正しい検査データを出せるよう研鑽していかねばと思わされる研修会であった。

(文責：加藤鉄平)



お知らせ

埼臨技事務所の夏季休暇について

令和5年8月14日(月)～18日(金)

上記期間は事務員が不在となりますので、
ご承知おきください。

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第3回 理事会議事録**

日時：令和5年6月8日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 阿部 松尾 佐瀬
三木 網野 塚原 神嶋
伊藤(隆) 石井 神戸 小林
長岡 久保田 長谷川

(監事) 遠藤

欠席：(理事) 伊藤(恵)

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年5月11日～令和5年6月7日)

5月11日(木) 令和5年度第2回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、遠藤、細谷

5月11日(木) レイボックホール事前打ち合わせ：
長澤、阿部

5月11日(木) 事業部会議：

塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

5月13日(土) 日臨技執行理事会：神山

5月18日(木) 第51回埼玉県医学検査学会第8回
実行委員会：三木、佐瀬

5月18日(木) ワークライフバランス推進委員会
議：猪浦、石井、塚原、神嶋、
伊藤(恵)

5月19日(金) 日臨技臨床化学スキルアップセミナー：神山

5月20日(土)～5月21日(日)

日臨技医学検査学会：神山

5月25日(木) 検査室管理運営委員会会議：
猪浦、塚原、松寄、伊藤(隆)

5月26日(金) 日臨技支部学会会計説明会：神山

5月26日(金) 第1回ホームページ委員会：

山口、阿部、塚原、濱本

5月30日(火) 埼臨技研究班運営委員会：

神山、松岡、長岡、長谷川、久保田

5月30日(火) 令和5年度理事研究班合同会議：

神山、松岡、猪浦、濱本、長岡、
長谷川、久保田、石井、神戸、
小林

6月2日(金) 日臨技全国学術部門長会議：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 令和6年度定時会員総会会場(レイボック
ホール大宮)について令和6年6月14日
(金)で予約した。

2) 6月2日(金) 埼玉県に公衆衛生功労者表彰
推薦書を提出した。

3) 6月2日(金) さいたま市に令和5年度衛生
検査精度管理専門委員の推薦を行った。

4) 6月6日(火) 令和6年春叙勲推薦書を提出
した。

2 総務部

1) 5月24日(水) 令和8年度学会優先予約申請
書を大宮ソニックシティに提出した。

2) 5月26日(金) 第1回ホームページ委員会を
開催した。(別紙資料1)

3) 6月15日(木) 埼臨技だより529号発行予定。

4) 6月18日(日) タスクシフト指定講習会(埼
玉県015)を開催予定。運営責任者は松寄
次長。

3 事業部

1) 5月11日(木) 事業部会議を開催した。

(別紙資料2)

2) 5月18日(木) ワークライフバランス推進委
員会会議を開催した。(別紙資料3)

3) 5月25日(木) 検査室管理運営委員会会議を
開催した。(別紙資料4)

4) ワークライフバランス推進委員会研修会開
催について

9月23日(祝) 10:00～11:30

「ワーク」 「ライフ」 のバランスって何？

～仕事と私生活、充実していますか？～

(2023年2月12日開催研修会の録画配信)

5) 第23回わらび健康まつり(11月5日(日) 北
町公民館・蕨市民体育館)について、「参
加」で回答した。実行委員は塚原事業部長
を推薦した。(別紙資料5)

6) 第18回深谷市福祉健康まつり(10月28日
(土)、29日(日) ビックタートル・深谷市役
所予定)への参加について「参加」で回答
した。(別紙資料6)

- 7) 令和5年度全国「検査と健康展」企画書・
予算書概要を日臨技事務局へ提出した。
(別紙資料7)

4 学術部

- 1) 5月30日(火)令和5年度第1回研究班運営
会議を開催した。(別紙資料8)
- 2) 5月30日(火)令和5年度理事研究班合同会
議を開催した。(別紙資料9)
- 3) 4月27日から5月30日の間、編集委員会を
メール会議で開催した。(別紙資料10)
- 4) 一般検査研究班藤村班長より、第33回関東
甲信支部・首都圏支部合同一般検査研修会
を令和5年10月14・15日の日程で埼玉県が
担当する旨報告があった。
- 5) 8・9月生涯教育研修プログラムを埼臨技
だより6月号に同封予定。印刷・配布は今
号が最後。10・11月分から埼臨技ホーム
ページでの掲載のみとなる。
- 6) 現地開催研修会での研修会整理費300円の
徴収を開始する。最初に徴収対象となるの
は、9月22日開催微生物検査研究班研修会
の予定。
- 7) 実技研修会にて参加キャンセルがあった場
合、会員へ公平な周知(研究班ホームペ
ージ掲載等)後、先着順にて参加を受付ける
運用を研究班へ周知予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 令和5年度正会員費100名500,000円、入会
金53名53,000円、再入会金4名4,000円、
合計557,000円の入金があった。
- 2) 株式会社サンメディアより複製等の利用許
諾実績金額495円(3件)の入金があった。
- 3) 株式会社メテオより2022年度文献許諾使用
料5,796円の入金があった。
- 4) 極東製薬工業株式会社から疑似便の特許権
等の譲渡対価として19,685円の入金があっ
た。
- 5) NECネットエスアイ(株)へZoomライセンス
更新料145,200円を支払った。
- 6) クエスタント更新料として55,000円を支払っ
た。
- 7) 日本臨床衛生検査技師会へ2023年度精度管
理調査用試料代821,034円を支払った。
- 8) 石井印刷へ、埼臨技だより第528号印刷代
123,101円、封筒代60,500円、合計183,601
円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 6月29日(木)令和5年度第1回精度管理委
員会会議開催予定。

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 5月18日(木)第8回実行委員会を開催した。
(別紙資料11)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和5年度分)

令和5年6月1日現在
会員数 3,573名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 190名)
賛助会員 59社[令和4年度 71社]
承認された。

- 2) 役員推薦委員会委員の補充について
現職の委員1名が役務の実施が困難なた
め、新たに1名委員を補充したい。

候補者名：武関 雄二氏

(自治医科大学附属病院さいたま
医療センター)

上記の件について、濱本隆明事務局長よ
り発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 令和6年度理事会開催日について

4月、5月は現行通り第2週木曜日とし、
6月開催分は同週に定時会員総会が開催予
定のため第1週木曜日開催としたい。

上記の件について、濱本隆明事務局長よ
り発言があり、審議の結果、承認された。

- 4) 埼臨技事務所夏期休暇について

夏期休暇を令和5年8月14日(月)から8
月18日(金)としたい。

上記の件について、濱本隆明事務局長よ
り発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 1) 研究班名簿の作成について

日臨技システムのリンクしている埼臨技
システムのデータを使用したい。

(別紙資料12)

上記の件について、阿部健一郎総務部長
より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 研究班共通クエスタントアンケート案につ
いて

学術部経由で各研究班に確認し、資料の
内容で運用としたい。(別紙資料13)

上記の件について、網野育雄理事より発
言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

- 1) 学術権限の付与について

ワークライフバランス推進委員会研修会
9月23日開催に際し、塚原部長へ学術権限
付与をお願いしたい。

上記の件について、塚原晃事業部長より
発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

1) 生理検査研究班班員補充候補者について

氏名：新井 雅人 氏

所属：埼玉医科大学総合医療センター
中央検査部

業務経験：3年以上

生涯教育履修状況：過去クール履修済み。

現クールは未履修（履修要請済）

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 研修会事業の変更について

(1) 日程変更

1) 病理検査研究班9月開催予定のデジタルパソロジー(仮)研修会を10月へ変更。

2) 輸血検査研究班9月開催予定実技研修会を10月へ変更。

(2) 会場変更

1) 遺伝子染色体検査研究班10月研修会をWebから現地へ変更。

(3) 追加開催

1) 輸血検査研究班10月1日開催予定の実技研修会参加者向けの事前Web研修会を開催

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 遺伝子染色体検査研究班のPC購入について

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

1) 別紙資料11の上程事項について承認いただきたい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果、埼玉県医学検査学会アンケート企画について承認された。

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

日を追うごとに夏らしくなるこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

皆様ご存じのとおり、「埼臨技だより」は印刷、郵送からWeb化になります。

ペーパーレスを進めるメリットは効率化、費用、環境などが挙げられます。紙の消費について調べてみると「日本製紙連合会」HPには国民一人当たりの紙・板紙消費量が示されており、2021年の世界平均55.1kg/人に対して日本は185.7kg/人と世界でもトップクラスの水準でした。各国の文化の違いもありますが、DX、SDGs、働き方改革、これからの社会に向けて重要な取り組みだと思えます。埼臨技事業も会員皆様の利便性を考え広く還元できるように進めておりますので、今後も埼臨技活動にご理解をよろしく願いいたします。

(神戸 記)

